

平成24年 5月 8日

会 員 各位

公益社団法人 日本鍼灸師会
研修事業担当 大湊 隆次郎
研修委員長 稲井 一吉

第8回（公社）日本鍼灸師会全国大会 in 埼玉 一般口演募集について

平素は全国大会並びに研修委員会事業にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、今年度開催されます全国大会一般口演枠につきまして、現在若干の余裕があります。

つきましては、発表をご希望される方は、下記の要綱に従って抄録原稿をご提出ください。なお、定員に達した場合や抄録査読の結果によりご提出いただいても発表できないことがありますので、予めご了承ください。

《 作成要綱 》

対象疾患：限定しません。但し、一例報告に限ります。

書 式：現病歴から考察まで26文字×43行

期 日：5月31日（厳守）

送り先：inai-63@blue.vecceed.ne.jp 稲井まで

※ワードで作成の後、必ずメールに添付してお送りください

抄録の構成について

【表 題】

表題は、疾患名か症状を入れ、20字以内を目安に簡潔で的確に内容を表現するようにまとめてください。読み手の関心をそそるような興味ある個性的なタイトルにし、読んだだけで抄録の内容がある程度想像できるものが理想的です。

【はじめに】（序論）

報告内容の要点やポイントを短文でまとめてください。

【症 例】

年齢、性別、職業のみを記載します。イニシャルは、個人の特定につながりますので記載しません。

【初 診】

初診年月日を記載してください。

【主 訴】

発症から初診時までの経過に関するものを記載します。

【現病歴】

発症から初診時までの経過が理解できる内容で、必要最小限に要約します。

【既往歴・家族歴】

現疾患との関連がなければ、省略します。

【診察所見】

所見は、文章化しますが、診断、適応、対応、治療、経過、予後、そして考察などに必要なポイントのみを記載します。

【治療・経過】

診断した病態や病名とそれに対する鍼灸治療の目的も記載します。

治療方法は、できるだけ詳述しますが、経過はポイントのみの記載とします。また、数値化できる所見は数値化して、経過観察に用いて記載します。

【考 察】

診断の根拠および類症疾患との鑑別。病名や病態および症状や所見との関連。発症機序について。予後、適応の判定について。前回の発病との関連について。医師の診断や治療に対する意見。他の治療に対する意見。仕事、趣味やスポーツなどと病状との関連について。鍼灸の奏功機序について。経過からみた鍼灸治療の評価や反省など。といった事柄について論文原稿に書いた考察のうち主要な部分のみを記載しますが、病歴と所見および治療と経過から考えられる事柄に関して理論的に考察します。考察は結果に基づいて行うものであり、結果から離れて推論を重ねることは望ましくありません。また、診断と考察は、必ず西洋医学的な見解を必要としますが、東洋医学的な意見を加えるのも可です。

なお、症例から得られた問題点や課題等を記載するのもよいでしょう。

【キーワード】

キーワードは 5 個以内とします。原則として、抄録本文に示されていない用語はキーワードには使いません。また、キーワードは索引としての意味合いがあり、知りたい内容を調べるためのヒントになります。そのため、キーワードは発表内容の象徴となることから、その発表を特徴づけるキーワードを選定する必要があります。

以上